

著書紹介

著者 山口 茂 (人文1回 外史)

(1) 「知られざる西南戦争」

2001年3月発行

出版社 島影社 (長野県諏訪市)

定 価 1,600円 (312頁)

明治10年に起こったこの戦争については、熊本城や田原坂での、西郷軍と政府軍の間で激しい攻防戦がくり広げられたことや、鹿児島市の城山で西郷隆盛以下の諸将が壮烈な最期をとげたことはよく知られている。だからこの戦争で戦ったのは勇猛果敢な薩摩隼人だけであるように思われがちである。

2月に始まり、9月までこの戦争が8カ月にわたって続いたのは、田舎の士族たちがつぎつぎと西郷軍に加って戦ったからなのである。

その実態を鹿児島県の資料や、同県下や宮崎、熊本、大分各県下の関係する市町村誌などを広く調べ、まとめたのが本書である。

西郷隆盛や西南戦争のことを詳しく知りたい方はぜひ目をとおしていただきたい。

本書はすでに絶版となり、著者の手もとにも2、3冊しか残っておりませんが、国会図書館やいくつかの県立図書館に所蔵されています。

(2) 「妹から兄へ」

2004年9月発行

出版社 武田出版 (神奈川県藤沢市)

定 価 1,300円 (272頁)

昭和40年代、宮崎県の片田舎に住む少女が東京の会社に就職し、日本の高度経済成長のなか、どのように成長し、変化し、どう生きていったかを、彼女からその兄に宛てられた手紙の内容から再構成したものである。

(3) 「輝いていた日々」

2006年5月発行

出版社 武田出版 (神奈川県藤沢市)

定 価 1,300円 (232頁)

「ある男と女が出会い、そして別れるということはどこにでもあることである。二人の間に起ったことはわざわざ記すほどの価値はないことかも知れない。だが修一の人生にとっては決して小さな出来事ではなかったことは確かである。ちか子にしても、もし修一という男性と出会わなかったら、その人生も恐らく、全く別のものになっていただろうと思われるのである。」(一本書より)

おもな舞台は、大学が大岩の地にあったころの大学祭である。今の20代、30代の若い世代にはピンとこない点もあるだろうが、その父や母の世代が生きていた時代を理解するには好適な書と自負している。

本書はまだ著者のところに何冊か残っています。希望者は下記までご連絡下さい。

山口 茂 〒420-0193
静岡市葵区瀬名川3-22-51
電話 054-263-8423